

編集後記・Editorials

魚類学雑誌
49(2): 171

皆様の御協力により、魚類学雑誌への投稿論文は確実に増加しています。受理された論文はできるだけ早く公表したいので、今号では総説依頼を行わずに、本論文7篇と短報1篇を掲載することにいたしました。投稿から受理まで、早いものでは5ヶ月ほどでした。一方、一部の原稿につきましては編集部の手不際により予想外の時間がかかっており、この点については深くお詫びいたします。前号が生態関係の論文で占められていたのに対して、今号では多分野にわたる力作を掲載することができ、主任として嬉しく思います。

前号でお願いした会員通信への投稿も増加してきました。記事を送ってくださった皆様に深く感謝いたします。会員の皆様がそれぞれ何号かに1回記事をお書きになり、その代わりに毎号何らかの情報を得られるような、相互依存的な会員通信になればと思います。

編集にあたっていくつか気のついたことがありました。魚類学雑誌では短報は原則として印刷時で4頁までとし、それを越えるものは本論文といたします。短報を投稿される方は、文量を計算して印刷4頁に収まるようにしてください。図表については、その横幅が片段(7.3 cm)もしくは全段(15.4 cm)のいずれかに適合するように、あらかじめ図の形や縮小率を検討してからつくってください。総計量を示す文字(P , n , F など)は本文・図表ともイタリック体とします。このほか、原稿についての細部は最新号を見本としていただき、不明な点は私にお尋ねください。

なお、49巻の編集にあたり、下記に方々に原稿校閲でお世話になりました。ここに記してお礼申し上げます。

荒井克俊、後藤 晃、林 公義、井上幹生、加納光樹(2)、片野 修、河村巧一、小嶋純一、近藤卓哉、前畑改善、前川光司(2)、松浦啓一、森 誠一、西村欣也、齊藤憲治、猿渡敏郎、佐藤友康、洪川浩一、清水昭男、竹下直彦、田北 徹、谷口義則、土野紘一、山崎裕治(2)、座間 彰 (片野 修)